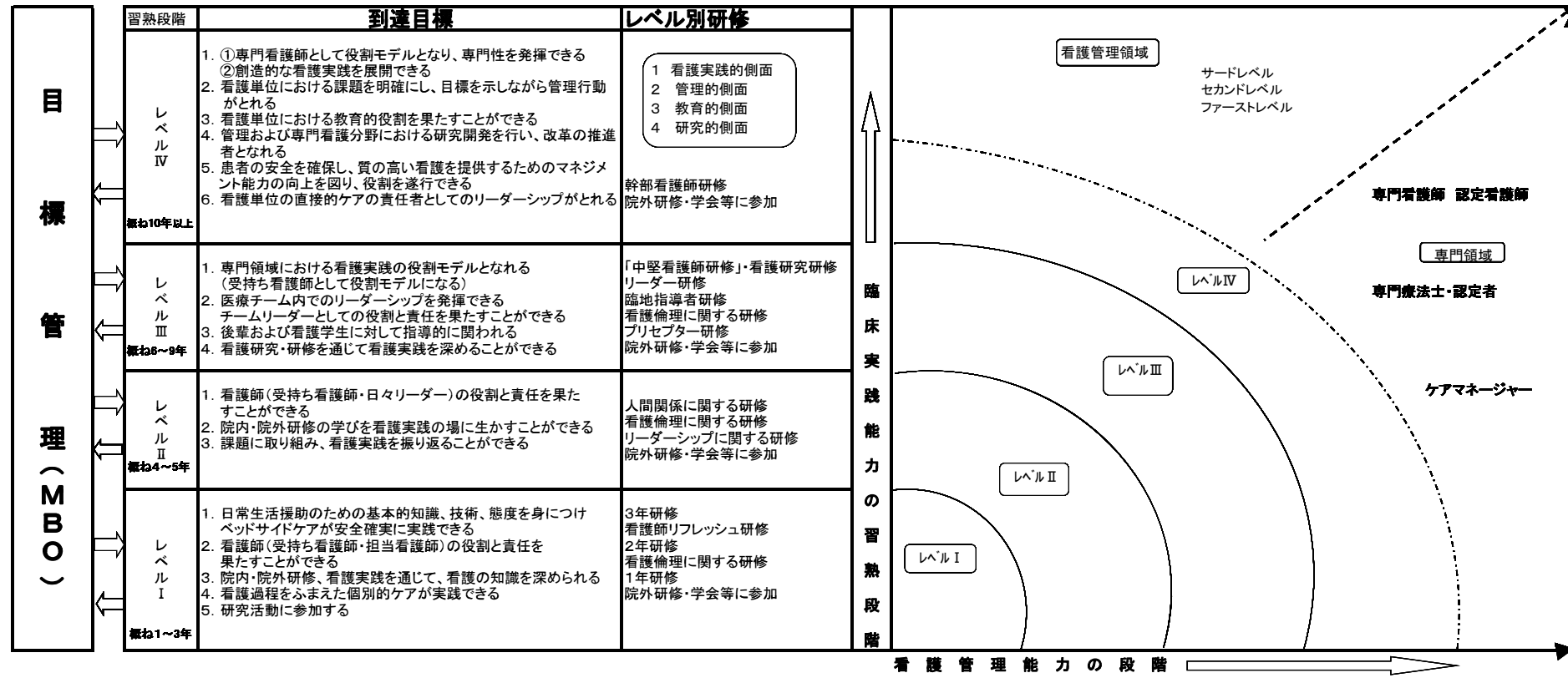


継続教育の目標およびプログラム

レベルⅠ～Ⅳは、臨床看護実践能力の習得段階を示し、専門看護領域と看護管理領域へと進める。臨床実践能力の育成を土台に、個々の看護師が将来目標の設定ができる教育計画を考えている。レベルの設定は、パトリア・ベナーの理論を基本にしている



臨床ナースの技能習熟レベル(ベナー看護論)と当院看護師の習熟段階の考え方

1 初心者 (novice): レベルⅠ(入職時)

・オリエンテーションを受けている新卒者(看護学生から専門職への移行過程)

2 新人 (advanced beginner): レベルⅠ(概ね1～3年)

・方針、基準、手順によってガイドされる患者状況や患者がどのように反応するかという視点よりも、自分たちが何をすべきかの視点から臨床状況を描写する
・ルーチンの患者ニーズを満たしながら、理論的知識に基づいて実践する

3 一人前 (competent): レベルⅡ(概ね4～5年)

・手技的技術のほとんどを習得しており、理論的知識と臨床経験を患者・家族のケアの場面で統合する
・よく起こる状況での患者の反応様式の認識が高まり、患者・家族を中心とした観点から臨床状況を見始める

4 中堅 (proficient): レベルⅢ(概ね6～9年)

・看護実践の深い知識を持っており、状況を全体として知覚し、経験に基づいて重要な要素を把握している
・予測されなかった介入を必要とするような状況の変化の対応でき、どんな状況にも自信をもって迅速かつ柔軟に対応できる
・作業志向から全人的患者ケアへの進歩がある(可能性を心に描きながら患者・家族の経験を解釈できる)

5 達人 (expert): レベルⅣ(概ね10年以上)

・達人としての直感と技術は、経験に基づいた包括的な知識である
・達人の実践の特徴は、全体状況の深い理解のうえに展開されるものであり、自分の個人的価値観を加えながら、患者・家族の選択を奨励し支持することができる